えんぽとたんぽの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会　報　第 13 号	２００２年6月２３日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：西原 一誠

1.　自然環境功労者環境大臣表彰の受賞と今後の管理運営に付いて　（会長　今井　和男　記）

田植期も終わり、新緑がまぶしい季節となりました。会員の皆様には益々元気で御過ごしの事と存じます。 さて、会員の皆様には既にご承知の事と存じますが、去る 4 月 29 日「みどりの日」に、会は「生き物環境づくり・みどりの部」で、東京新宿御苑にて環境大臣表彰の栄を賜りました。このことは、会発足以来、創造、設計、建設等に会員の皆様方の御努力と汗の結晶で、認められたものであります。心からお喜びを申上げます。又この間、行政をはじめ各種団体からのご指導、御協力を賜りました事に、深く敬意を表する次第であります。最近では、数多くの問い合わせ、見学者等が見受けられ、関心の高さに驚いています。山口県を始め宇部市並びに二俣瀬と我々の会が 自然環境の果たす役割について、評価される事は誠に有り難い事です。次に会の今後の管理運営ですが、4 月会則の改正で、事務局のあり方を大幅に改正いたしましたことは、会員の皆様方は御周知の事ですが、改正後、早 2 ヶ月も経過しておりますが、事務局の積極的な取り組みで、会は順調に運営しております。この事も会員のご理解と御協力の賜ものと存じます。年間行事の計画も樹立し、毎月土曜 2 回を計画し、草刈り植栽等を充実しておりますので、会員皆様方の更なるご参加をお願いする次第であります。なお、連絡網も明確化されておりますので、宜しく御活用され連携を更に密にされ、会の管理運営が益々円滑に運ぶよう祈念いたします。　以上

2..　活動報告（事務局　原田満洲夫　記）

－ ５月２３日（木）中国四国農政局企画調整課から伊藤・日並さんが、広報誌『ライブ農業中国四国』の取材に来られました。「遊休農地で環境保全」をテーマに、ビオトープ造成の目的、これまでの苦労話、地域に与えた影響など、現地視察も含め２時間半の長時間にわたり取材を受けました。
－ ５月２４日（金）山大でビデオ作成会議が行われました。木下先生より、ラフシナリオ案の説明のあと、従来型ビデオと CD-ROM の特性の違いについての説明。ストーリーにそって流れるようなプログラムは可能だが、それでは CD-ROM の特性を殺してしまう。ここでもう一度原点に返る必要があるのか？ちょっと、ピンチである・・・。
－ ５月２５日（土）今日の作業は、湿地は主にセリを、蓮田はガマをぬく作業をしました。
－ ５月２６日（日）白いトキ草が咲いていました、会員の北村さんの話では、珍しいそうです。
－ ６月１日　植栽 厚東川より金魚藻移植　１１名参加
－　６月１日（土）　山口県豊魚祭が沢波川本橋河川敷ホタル広場で行われました。そこに里山ビオトープ二俣瀬のパネル５枚を出展しました。また、他の出展場所の水槽では、オヤニラミやスナヤツメなど珍しい魚たちもがんばっていました。
－　６月１日　小郡桂谷の“ ランプの宿 ”にて５名宿泊研修に参加
－　６月４日　福岡県甘木市から来訪 ９名、市県の掛り合い等質疑応答や苦労話談義　（原田副会長御案内）
－　６月８日　植生調査、関根会員教え子ほか学生会員２名含む８名ほか一般会員１１名　計１９名
－　６月１０日　中国電力(株)によるボランテア助成活動、草刈りほか、延べ約４５人　（ 主に須賀河内川の葦除去、蕎麦田の土手草刈り）
－　６月１２日　田植準備　元肥施肥、水あて，荒掻、代掻、整地、ロープ等 準備　(車地会員　原田壮一、林弘之、原田賢治ほか）
－　６月１３日　琴芝から来客、市広報課主催、見学者 １５ 名　今井会長、吉富匡さん案内
－　６月１５日　イベント田植え、会員ほか市内子供協議会から　　１１０名　参加
－　６月１６日　広島県加茂郡 すいすいクラブから６名　お客様　（原田、田村会員にてご案内）
－　６月２２日　水田に追肥施肥又除草用として米ぬか散布　（会長、車地会員にて）
　　かねてからの願いの工具小屋が入荷しました。据付も即行ないました。

3.　今後の予定（事務局　原田満洲夫　記）

－ ７月３日　山陽町 厚陽小学校より見学　１９名＋保護者
－ ７月６日　維持管理 （池、湿地の歩廊橋ボールト増し締め)、湿地除草 （ひえ、セイタカアワダチソウ）
－　７月９日　見学者 県議久保田さんほか８名　（今井会長応対予定）
－　７月２０日　全員集会による連絡会議ほか　管理道一部草刈り、夏草の勉強会、焼肉大会現地で？
－　７月２１日～２４日　水田中干 無効分結防止処置　(車地会員にて）
－　８月末　水田穂肥（ほごえ） 施肥、うんか等除虫　(会員ほか人海戦術）
－　１０月６日　ロータリクラブ(会長 渡邉輝弘）にて“ 里山ビオトープ二俣瀬 ”の講演　（講師　西原一誠会員）

4.　ビオトープ関連　（ビオトープで観察される動植物）

－ “二俣瀬のビオトープ周辺で観察される蝶”　　（藤井　義晴　記）

2002 年 4 月 30 日までに、ビオトープ周辺で確認された蝶は、下記の 41 種です。

アゲハチョウ科：アオスジアゲハ、アゲハチョウ、カラスアゲハ、キアゲハ、クロアゲハ、ナガサキアゲハ、モンキアゲハ

シロチョウ科：キチョウ、スジグロシロチョウ、ツマキチョウ、モンキチョウ、モンシロチョウ
ジャノメチョウ科：クロコノマチョウ、クロヒカゲチョウ、サトキマダラヒカゲ、ジャノメチョウ、ヒカゲチョウ、ヒメウラナミジャノメ
シジミチョウ科：アカシジミ、ウラギンシジミ、ウラナミシジミ、コツバメ、ツバメシジミ、ベニシジミ、ムラサキシジミ、ヤマトシジミ、ルリシジミ
タテハチョウ科：アカタテハ、イシガケチョウ、コミスジ、コムラサキ、ツマグロヒョウモン、ヒメアカタテハ、ミドリヒョウモン、メスグロヒョウモン、ルリタテハ
セセリチョウ科：イチモンジセセリ、ダイミョウセセリ、チャバネセセリ、ヒメキマダラセセリ
テングチョウ科：テングチョウ

5. ビオトープ関連 (ビオトープ近辺の案内)

― “甲石（かぶといし）” （車地　吉富　壮介　記）

ビオトープ横の道を進むと、新幹線につき当たる。当たらずに左に折れ、山道を辿っていくと、急に開けてテクノへ出る。出た処に小公園をしつらへ、“甲石”が座っている。説明板が添えられて…。「壇の浦で敗れた平家一門、その内の一人“悪七兵衛景清”が、落ちゆく途中、此の地を通った。ひと息いれようと馬をとめ、兜を脱ぎ山頂においた。これが石と化した」と。“かぶと”に見えなくもないが、大人ふた抱えはあろうか。こんな大きな、重たいものを頭に乗せられるものではない。第一、地面にじかに置く武将がおろうか。が「物語り」となれば、うなづけなくもない。遥か東のハゲ山に、どっかと座っていたが、テクノ開発の折、谷底へ転がすのも不憫（ふびん）とて、現在の地へ移された。此の地は“鋳物師釜”地元民は「いもじがわ」という。四方が山、空だけ開け、道路も電気も無く、静かで長閑（のどか）な里だった。人間のビオトープといった処、一年中カエルとウグイスが鳴いていた。鋳物師が目をつける様な鉱石を、古い、深い井戸の底に見ることができた。戦前一世帯、戦中二世帯、戦後の一時期六世帯三〇人が住んでいた。その頃住民から「いもじがわ」はすかん、「甲石（かぶといし）」にしようとの気運が高まった。が、陽の目をみない侭立消えになった。昭和３８年、念願の電気が来たが、なぜか一戸減り、二戸減り、最後は電柱が残った。今はテクノに拓（ひら）け、一望千里「ここも日本か？」と思えるほど広々としているが、売れもせず、建ちもせず、かっての野や山を知るものは、見るたびにさみしくなる。片隅に追いやられた“甲石”いびつけない思いで見るのは、私だけだろうか。

6. 会員の声

― “ビオトープのホタル” （今本　幸江　記）

6月の初め頃に、ビオトープにホタルを見に来ました。だんだん暗くなるのにしたがって、草かげに１匹、２匹と光りだし、少しずつそれが増えていき、気づいた時には水車付近から見て、東屋の右のほうの川付近からこっちまで思った以上に光っていました。それも、光りかたがほぼ同じくらいなのでパアッと光りスッと消え、まるで、１匹のホタルに他があわせているような感じでした。そして、飛ぶ距離も長かったです。去年、他の土地で見たホタルはすぐに草の中へ消えましたが、ここのホタルは右側の川から左側の土手や山のほうにまで飛んでいくのもいました。ホタルってこんなに飛べるんだと思いました。去年、他の土地で見た時ははじめて見たので感動しましたが、今年ビオトープで見た時は、真暗で人もほとんどいない、静かな場所でじっくり見れて良かったです。帰りもビオトープに入る手前の土手から見おろすような感じで見るとまたきれいだったので、そこで止まって見てしまいました。

― “ヒュッテ　桂谷ランプの宿　訪問” （田村　勝芳　記）

６月１日（土）夕方、原田満洲夫さん・他４名の会員で小郡町桜梅の里、桂谷にあるランプの宿を訪ねた。県道、萩・秋芳線を左折し、桂橋を渡り山道を１ｋ余り入ると、２階建てのログハウスが、正面に見えるところに到着。杉の森の中に、ランプの宿があった。山側から、流れる渓流の音が、一段と涼しさを増す。支配人の佐伯清美さん他関係者と愛犬ログの出迎えを受ける。荷物を、２階の大広間（２０畳位）に下ろして付近の散策をする。４００年位前の石垣で作られた棚田が、山側に何段もあり、里山の歴史が、伺われる。中腹の大岩の中には、『山上の神』も祭ってあり、昔人の祈りが見られる。薪割道場、杉の皮むき道場との看板もログハウス前に掲げられており苦労の後がある。夕食には、二俣瀬ビオトープ会員とランプの宿関係者との合同でバーベキューガーデンパーテイーとなりお互いの情報交換の場となって盛り上がった。お腹が膨れた後には、蛍の見物に出て山道を下ると水路の囲リから小さい光を放つ蛍がたくさん見えた。ランプの宿に帰り、大広間に会員が、全員で就寝し、翌朝、ヒュッテ桂谷の看板の前で、記念写真を取り、今後の活動と再会を約束してランプの宿を後にした。

7. 来訪者の声 （東屋のノートより一部抜粋）

― 新聞のおりこみか何かを見て孫を連れて来ました。自然がいっぱいで、気持がいやされて　とてもよかったです。（子供の頃を思い出しました）　３才位までの小さい子が入ってぴちゃぴちゃと遊べる場所も、あったらとちょっぴり思いました。（５月５日晴　著者不明）

― 前から来たかった二俣瀬ビオトープ、今日やっと来ることができました。パンフをもらっていたのに、持参せず、道々地域の人に尋ねながら（ありがとうございました。）たどり着きました。メダカ、トンボ、カエル、ハスの花。どれを見ても、懐かしく、久々にゆっくりと子どもの頃の自然の懐でたわむれさせてもらいました。また違う季節に来てみたいです。（５月 11 日（土）　山陽町）

― 黒石小に通う子供に、行きたいとせがまれて見に来ました。ふた昔前までは、この様な風景は、身近なものだったなァと　大

人になって街に住んでいると　あまり（ほとんど）触れたくなくなってしまいます。子供は、大喜びで水に入りました。自然と共生し、自然の恩恵にあずかってきた日本て、いいなァ。失いたくないものです。（5 月 12 日（日）著者不明）

― ずっと来てみたくてやっと来れました。ｳﾑｰ　私は鳥屋なので、カワセミにあいたいものです。娘はスケッチブックもって来れば良かったと言います。いやされるスペースですねー。（5 月 12 日（日）下関市）

― 今日は母の日、5 月に入り雨が多かった何となくうっとうしい日々が続いていた。4 月 29 日緑の日に主人と２人来て、昔はいつもこういう風景を見て育ったが、今は何ともなつかしく　昔子供の頃を思い出す。今日は孫をつれて来た。７才の孫はもともと自然が大すきだけど　初めて昭和山にも登り　弁当も食べず楽しく遊んでいる。本当に気分よく遊びました。（5 月 12 日　宇部市　安部）

― 昭和山の頂上からの眺めをよくしたら良いと思います。周りの小枝をかったら少しはよくなると思います。（5 月 12 日　東桃山　A）

― まむしがこわかったので、たいじしてください。（まむしはみえなかったけど）　きれいな川でした。トイレがほしいです!!（5 月 12 日（日）小野田市　山本かすみ）

（その他にも、トイレやマムシのことが書かれた文章がありますが、私達は何もしないつもりです。トイレと車の駐車は市民センターで、ヘビは自分自身で守って下さい。…事務局からのお願いです。）

― 本日は、お日様が出てなく風もここち良く清々しい空気の中で　またワラビも少し採れ　久し振りに　さわやかな気持になりました。ヘビも２匹迎えてくれました。ウグイスもさえずり、俗世間のこともしばし忘れ　あ~　幸せ幸せ！　（5 月 14 日　小野田　美人ママ）

― 久し振りに心が洗われるようでした。ちなみに私この二俣瀬生れです。昔は、ヘビもこわくなく山の中を歩き廻っていたような気がしますが、…　なつかしい風景と心地良い風にうっとりです。ここまでの道もよく整備され　皆様の御苦労がしのばれます。ありがとうございます。又　他の人を誘って来ようと思います。（5 月 14 日　山陽町）

― 本当の自然に会えました。皆様のご苦労大変でしたでしょう。有難うございました。（5 月 18 日　宇部市　田中夫婦）

― メダカとか、カエルとか、かわいい生き物がいっぱいいて楽しかったです。でも途中、ヘビ（マムシじゃないけど）と出会って、こわかった〜!||ゾオ~。あとクモ。…　（5 月 18 日（土）渡壁明理奈）

― 水車大きいですネ　木の香がとても好き。静かで、のんびり出来ました。ミニ尾瀬公園といった感じ。（5 月 18 日　山口市より　愛子）

― 息子と二人で昭和山から来ました。すばらしい環境に感動しました。今後の御発展をお祈りいたします。（５月 19 日（日）　小野田市　３０年前もと二俣瀬小児童）

― 自然に人の手を入れるのは大変力がいることだと思う。もしこのビオトープに、ＩＡやＩＢの生物が見える様になったとしたら、それはとてもすばらしい事だと思う。炭などを使い水の浄化することや、水車を作ることが、自然のある所を見学させる一つのみりょくになると思う。また水の流れをつくったりするのも良い事だと思う。しかし、水がもう一つ流れてないように思う池があった。池の周りがあまりに明るくて池の水の温度が気になる。鳥が、エサをついばむにはあまりに、池が森からはなれているように思う。（5 月 22 日（木）　上田）

― へび（黒いのでした。）に出会った。木の橋も怖かった。一種の絶叫マシンより怖い。（デンジャラス!!）（5 月 25 日　ｂｙ浅上）

― 風のさわやかさ、水のせせらぎ、水草の花がとてもかわいく、とてもやすらぎました。（5 月 25 日　浅上母）

― 娘がヘビを見て、絶叫し、静けさを乱しましたが、大変お気に入りの様子です。No.1・2 のノートを読みながら、原さんの名前を見つけて、絵が上手…等、楽しくあそんでいました。（5 月 25 日　浅上？）

― カエルがいっぱいつかまえられて、楽しかった。どじょうも見つけたョ。ヘビもいたよ。景色が美しい。昼は楽しいから住んでみたいけど、夜はオバケがでそうでこわいな。（5 月 25 日　いずろう　と　はるか）

― 水の中をヘビ（ミニヘビ？）がおよいでいました。静かです。水の音、カエルの声、せせらぎ、まもなくたんぼに青い風が通るようになりますよね。ボランティアの方々ごくろうさん。ありがとう。（5 月 27 日　二人連れ）

― 久しぶりに訪れました。植樹が増えましたね、御苦労様です。10 年后は緑に囲まれた有名ビオトープになる事を確信致します。（5 月 28 日　著者不明）

― 前々から来てみたいと思っていたので　今日来れてうれしいです。友人に案内してもらいました。夕方で　だれもいなくて　のんびりでき　いやされました。スイレンの花がきれいですね。これからも　よい環境づくり　がんばって下さい。（5 月 30 日　宇部市　畑山）

― きょうは、草かりがあるとおとうさんが言うので、きたけどだれもいなかったよ。みんなどこで草ぬきをしてたんだろう。（6 月 1 日　はれ　ふじ本　彩加）

― 1 才の女の子、4 才の男の子とその母でやってきました。兄の方は、おなかまで水につかって大まん足です。少々けがもしたけど平気そうです。そして、この休けい所の中でおにぎりを食べました。ノートを見せてもらって、トイレ…あるといいでしょうけど、設置はもちろん、管理も大変なのでは…？　ちょっとした箱とビニール、トイレットペーパーを用意して、携帯トイレを持参してはどうですか。風も快地よく、もうすこし、ゆっくりして、帰ります、楽しかったです。（6 月 1 日（土）　宇部市のある一家より）

― 最近朝日新聞に 2 度程「宇部の里山ビオトープ二俣瀬をつくる会」の事が出ましたので来て見ました。多分休耕田や荒地をこれ迄に造られたボランティアの皆様の汗の結ショウで大変でしたと思います。今後が楽しみです。ベッコウトンボ、トララトンボ等が見られず、又参ります。（6 月 1 日　埼玉県生態系協会　トンボと自然を考える会　会員　埼玉県入間市宮寺 2957-43　島田　哲也）

― しおからとんぼがいっぱいいました。つばめも元気よくとんでいます。きれいに整備されていて、本当、関係者の方々御苦労様です。それから、オオヤマトンボ 2 匹見っけ！（成虫） それから、ヤマサナエ、ショウジョウトンボもおった。（6 月 8 日（土）北九州市 ボギー）

― 田舎からきたのに、はすは、水をはじく！ 水をかけたらおもしろいよ！！ ってことしらんかったべさ。万倉のほかにも、もっと自然がいっぱいあって、よかった！？ ゴミをすてないでネ！（6 月 8 日 楠町万倉 五年 堀川 順子）

― おたまいっぱい。きもちいい。（6 月 8 日 まぐら 1 年 なつき（堀川 夏希））

― ～まだ？34 才だというのに、少し歩いただけで、ヘエヘエ言ってます。子供の頃に見えていたものが、今はだいぶ減ったようです。自然の中のいろんなものが、目にとびこんできていましたが…、公園などなくても、自然が遊び場でしたが…。どんなに便利な物や場所であっても、いきつくところは、こういう場所なのかもしれません～（6 月？日 著者不明）

― 近くに住んでいて、始めて来ました。私達の幼い頃の、自然が思い起こされます。一人でも多くの人に教えて、家族で来てもらうように協力したいと思います。（6 月？日 厚東駅前 上原 誠次）

― 今日の午前中に田植えがあったんですね。来てみたかったけど公民館の行事に参加していたので無理でしたね。ビオトープってとてもいいですね。私の小さい頃はまだ、こんな風景、沢山残ってたと思うんですけど…、この棚田がまたいいですネ。（これはビオトープの物ではないと重いますが） もう少し苗が伸びた頃が一番好きです。竹林を見ていると、トトロが出てきそうな気がします。トトロの風景もすごく好き（ビデオで観て下さい）。去年、きらら博でほんの一画のビオトープを見つけて、“ あ～ほっとするなぁ ” と思ってました。最近は里山とか森とか大事にしようという運動がいっぱいおきてますね。いいことだと思います。ボランティアの方、素適な里山ビオトープを造って頂きありがとうございます。私は子連れじゃなくても一人でも来ると思います。今でいう “ いやし ” の場所ですね。また来ます。（何回も来たけど、ノートを見つけたのは初めてでした） ちょっと一人言を書いてみました。（6 月 15 日（土） 山陽町 白石）

8. 会よりの連絡事項

― 会報の送付に付いて

会報の配布に付いては１４年度総会で決まりましたように、その月の行事に参加された人には、その時に市民センターで受取れる事になっています。これは通信費がかかる上に、事務局の作業が市民センターから離れて一般会員の事務局(原田満宅）になったため、煩雑さから開放し簡素化して頂いた事からです。総会参加者は理解されて賛同を得られましたが、出席されなかった人への説明が今だなされてなく、なぜ会報や連絡が無いのかと、不審に思われる会員がおられるのではないでしょうか。兎に角一度会員全員が参集できる事が望ましく、夕涼み会を兼ねて行事(勉強会又は交歓会）を開催したら如何でしょうか？ 何方か音頭をとりませんか。

― 自治労連機関紙 “ やまぐちの仲間 ” の記事紹介

2002年5月24日号（No.157）に「里山ビオトープ二俣瀬」＆「昭和山遊ロード二俣瀬」という記事を、機関紙の “ ちょっとひといき（一域）” の欄に、会員の梶山幸生さんが載せておられます。機関紙は会報と共に配布します。

― ホームページからのお知らせです。

昨年７月２３日より本年６月１２日をもちましてホームページへのアクセスが１００００件を突破いたしました。これまで多くの協力があったおかげだと思います。ありがとうございました。最後に、アクセス、又は御協力してくださった皆様、これからもよろしくお願いいたします。 ホームページ管理人：若林 正治（わかばやし しょうじ）

9. 編集後記

― 15 日の田植えは、参加者が多く天候にも恵まれ、盛況でした。準備をされた会員の皆様の努力には、感服いたしました。私は今回が初めての田植でしたので、新鮮な気持で参加できました。ただ心配なのは、これからの天気です。梅雨入りした後、本格的な雨が降っていません。週間の天気予報を見ても、晴れと曇りだけで雨マークがありません。少々の日照りでも田は大丈夫だと思いますが、湿地はどうなるのでしょうか。自然の湿地は、水の供給に多様性がありますが、我がビオトープでは用水路頼みです。水不足になれば、不用不急の水として、供給を断たれるかもしれません。ビオトープの畦や堤が壊れるような大雨はいりません。適当に降ってくれればいいのです。この会報が発行される頃には梅雨空になることを祈って。雨乞いでもいたしましょう。 （前田 歳朗 記）